「平和と人権」市民ネットワーク情報　NO20-11
事務局発行(℡ 0557-45-1182)　http://peaceito.moo.jp　2020.11/17

アンケートを受けて

◆47 通(53 人)のアンケートを受けて、『市民ネットワーク』と『市民アクション』の今後について、事務局会議で二回にわたって議論しました。要点を紹介します。

(1)組織の存続か解散か

◎市民アクションについて

戸田…今以上の活動が求められている

総理大臣が変わったから何かが変わると誰も思っていないし、むしろ最近の動きを見ていると、みんな危機感を強めているんじゃないかと思うんです。公然と改憲の条文案を作るとか、国民民主党の動きは怪しい。そうなると、今以上の活動をしなければいけないという危機感を持っていらっしゃるんじゃないかと感じる。そういう考えを大事にしたい。表立って改憲反対の活動をしているところというと、9 条の会がもっと動いてくれるなら別ですけど、ここがなくなったら伊東の運動が死んじゃうような気がしないでもない。だから、ますます期待が大きくなっているんじゃないかと思う。いろいろな団体を引っ張っていくような気概をもって、もっとやらないと先々危ういんじゃないか。

◎市民ネットワークについて

三好…役割が終わったわけではない

「市民ネット」については、特定目的を実現するための運動体ではないので、安倍退陣によって役割が終わったわけではない。「市民ネット」が解散するのは、客観的理由によってではなく、事務局メンバーの―意欲や病気など―主観的理由によってだろう。今のメンバーが続けるという意志を持っていれば続くことになる。存続を前提として、「ネット」のありを考えると、将来的には、コミセンを単位とする地域サークルをつなぐような形になることが理想だが、道は遠そうだ。

(2)二つの組織の一本化について

伊藤…　アクションに一本化するのが良い

僕は市民アクションに一本化するのがいいんじゃないかと思う。市民アクションに市民ネットの機能を取り込む。最近弱者の観点でいろんなことをはじめているけれど、そういうところをやっていく。「9 条改憲 NO!」の前にたとえば、「憲法を生かし」を入れ、「憲法を生かし、9 条改憲 NO!」とする。そういう形ですこし幅をひろげたらどうか。

加藤…吸収合併はよくない

どちらかに吸収合併するというよりも、両方の人たちでこう作って、その中には読むだけの人もいていいし、勉強するだけの人もいていい、行動もするよという人がいてもいい。「こんな風にしました、抜ける人は言ってください。」こう出すのはまずいですか。

斉藤…無理に一緒にするのが得策かどうか

最終的な目的というのはアクションと市民

ネットワークは同じではない。行動する形態も同じではない。僕は最初一本化したほうがすっきりしてよいのじゃないかと思ったけども、出来上がった経緯も行動のありようも違うので、無理に一緒にすることが得策かどうか、わからなくなった。

★★二つを一本化した方が良いのかどうか議論を重ねています。皆さんの考えはどうでしょうか。

(3)活動の重点

◎市民アクション

三好…外に働きかけ広げる活動が不可欠

運動体として考えると、地域共同署名やポスティング、19 日行動は不可欠。アクションの活動としては外に働きかけ広げていく活動が絶対必要だと思っている。が、高齢で動けない人たちもいる。同じ姿勢で立っているスタンディング・アピールはつらい。そういう人が、会員に名を連ね、時にはスタンディングに加わる。やれる範囲で運動に加わる。これができるのが市民運動の良い所だと思う。

◎市民ネットワーク

三好…間口を広げて声を発することが大事

平和と人権を民主主義の両輪とする憲法の構造からすると、九条問題は人権や立憲主義と不可分である。これらの問題について－間口を広げて－声を発することが九条擁護にもつながる、と考えている。とはいえ、素人の市民がやれることはたかが知れている。無理をしないで声を上げ続けることが大事だろう。この持続性を支えるのは、会に集う人たちの応答を通じて形成される相互信頼であると信じている。

(4)運動を広げるために

松本…若い人たちを育てる

事務局の方は大変だと思うし、高齢化している。①～⑥までやりたい項目なんですが、すべては参加できない、年齢的にも。雨の降る中でスタンディングと言ってもきついと思う。ポスティングにしても 50 枚廻るだけでも大変だと思うし。やはり若い人たちを育てていかないと、5 年後には自然消滅していく感じもします。

三好…若い人を当事者に

若い人に加わってもらう方法として、若い人に報告者になってもらう。講演会の時に市職の人に司会をやってもらったことがあるんですが、あんなふうに当事者になってもらうことが若い人に加わってもらう一つの方法かな、と思う。保育の問題なんかを報告してもらって、それを学習しながらつながりを作っていく。

(5)その他

①市民連合的な役割について

斉藤

市民連合が 15 項目の要望書を立憲野党に提出して、すべてが合意されてはいないけれども、早くしないと何時、解散・総選挙があるかわからないという状況のなかでは、そういう橋渡しを伊東の中でもやっていく必要があるのではないかな。来年は市長選挙もある。野党共闘も視野に入れた活動も必要ではないか

伊藤

われわれが市民連合的な役割をする必要はないのではないかと思う。全国市民連合で提案した路線があるので、それをアクションとして実行するという立ち位置で良いのではないか。

三好

市民連合に代わるというか、それと同じ役割を期待されても、それはちょっと違う。一つの組織で、あれもこれもとはできないし。

②SNS やウェブ会議の活用を

松本

事務局体制が重要かな、と。そんな中でメールで流すのも大変だと思います。ウェブ会議なんかも入れ込んで。あとで SNS 上にアップして、この時間にはお母さん方も働いているからお家に帰って夜 9 時ごろには見られるような。そういうシステムにしていかないと参加できない。

★★　以上、１０月１４日と１１月４日の事務局会議の議論の一端を紹介しました。合わせると２時間以上話し合いました。「ネットワーク」と「アクション」を一本化した方が良いのかどうか。現在、「ネット」と「アクション」に集う人は 140 名近く。そのつながりを生かしながら簡明でわかりやすい組織にするにはどうしたらいいか、難問です。皆さんの知恵をお借りしたいです。

アンケートの記述の紹介

①古川宣子さん　（ネットの活動、自由記述）

「情報発信、交流の場」＆「9 条改憲 NO！」は主旨からして双方、理解・協調・支え合いで発展させていくもので、組織が二つあることに理解が追い付けませんでした。単純に考えれば学び、行動することは一体なのだからです。でも、中心になって活動されている方は、粘り強くコツコツと頑張って来られたこと、素晴らしいと思います。

②大久保伸子さん

（自由記述）

安倍政権の支持率が、辞任表明の後に急上昇したことに衝撃を受けました。伊丹万作(映画監督)が戦争責任の問題について言った以下のことが、今まさに再現されているのではないかと思います。伊丹「俺がだましたといった人間は一人もいない。日本人全体が夢中になって互いにだましたりだまされたりしていたのだ。『だまされていた』といって平気でいられる国民なら、おそらく今後も何度も騙されるだろう。」

③久保田信一さん

（ネットの活動、自由記述）

広く様々な角度からの議論が重要だと思います。その意味で参加者の顔ぶれが狭まってきていると思います。

若い人たちの保守化・保身についてはわたしたちにも大いに責任があると思います。そこのところをどう変えていくか。大変難しい問題ですが、諦めることなく、また敵に回すことなく、訴え続けていくほかないと思います。

④武田　弘さん（自由記述）

市民ネットワークの活動を見させていただいて、自公政権のいらだちを少しでも解消させていただけるものでした。私も難病に取りつかれ、一日一日を終えるのが精いっぱいの状況です。三好さまもくれぐれもお身体ご自愛ください。いろいろお送りいただいてありがとうございます。

※ *次号以下で他の方の記述を順次紹介していきます。*

「伊東市民病院の今と明日を考える会」から

伊東市民病院に勤務していた石山医師は、今年３月突然出勤を止められ、５月には他の医療センターへの異動を命じられました。事実上の解雇です。病院はホームページにカルテ改ざんの不適切医師と一方的に書き、地元新聞もそのまま報道しました。石山医師は事実無根であり名誉棄損であると裁判所に訴えました。石山医師の元患者さんたちは、石山先生を支援すべく会を立ち上げ、署名活動を始めました。請願事項は、一つは処分が不当であり石山医師を復帰させること、もう一つは市民のための市民病院となるよう病院の運営を改善すること、です。新聞報道だけでは事実は明らかではありません。同封の石山医師の法廷での陳述を是非お読みください。そして、署名に賛同される方は、ご記入の上、会の代表である浦島浩司さん(「ネット」と「アクション」の呼びかけ人)まで届けてください。住所と電話は以下の通りです。

（19 日行動で訴える石山医師）

〒414-0044 伊東市川奈 1183-159　浦島浩司　宛　（℡ 090-2927-7376）

～掲 示 板～

「時の行路」上映会

★どんな映画？

「派遣労働者はモノではない」と突然の首切りに対して尊厳をかけて闘う人々を描いた映画。原作は、いすゞ自動車の派遣切りをモデルに、大企業の論理に屈せず闘う人たちを描いた力作長編。神山征二郎監督の 30 作目の作品。

【宣伝ビラから】

舞台は三島。単身赴任で働く主人公と青森の家族。
三島・伊豆の国・沼津など、地元がロケ地
映画には地元の人々もエキストラとして多数参加しています。

★上映会の要領

同封(添付)のチラシをご覧ください。

★前売券が数枚手許にあります。三好までご連絡を(0557-45-1182)。

ビデオ視聴会

渡辺治「安保60年と日本国憲法－安倍なき安倍政治は許さない」(10 月 4 日講演)

・日　時…１２月１６日(水) 10:00～11:30
・場　所…ふらっとハウス「ポレポレ」(伊東市松川町 5-29、中央通り商店街)
・参加費…無料
※ 問い合わせ…伊藤廣光　(080-3314-7047)